

操作性と排出性能を大幅に向上 セミダンプ式ジェットパックをモデルチェンジ

極東開発工業(株)は、このたび粉粒体運搬車「セミダンプ式ジェットパック」をモデルチェンジし、2017年7月28日に発売した。

ダンプ式ジェットパック(フルダンプ式・セミダンプ式)は、タンクを傾斜させ積荷の粉粒体を後部排出部から排出させるタイプの粉粒体運搬車で、比較的大きな粒状の積荷の排出に適している。

今回モデルチェンジした新型セミダンプ式ジェットパックは、操作系をシンプルにすることで簡素化を図ったほか、タンク内構造の最適化により排出性能を向上させるなど、より使いやすく進化している。

なお、消費税抜きの希望小売価格は641.5万円からで、年間販売目標台数は20台としている。

■新型「セミダンプ式ジェットパック」の特長

(1) 操作がシンプルに

旧型では2個あった操作系のアバルブを、構造の見直しにより1個とすることで、よりシンプルな操作を可能とした。

これにより、作業性が大幅に向上し、現場における負担の軽減を実現した。

(2) 積荷の排出性能を向上

タンク内構造の最適化により、タンク後端の排出口に積載物がよりスムーズに誘導される構造としたほか、積載物を排出させるためのエア供給の構造も見直した。

これにより、旧型と比較して大幅な排出性能の向上を図り、作業時間の短縮を実現させている。

(3) アルミ製サイドバンパを標準装備

アルミ製のサイドバンパを標準装備とし、防錆性能および外観品質を向上した。

(4) 操作性・視認性が向上した3連メータを採用

コンプレッサ回転計、タンク内および配管圧力計、ガバナ



操作性・視認性が向上した3連メータ



エアスライド式ジェットパック



エアレーションブロー式ジェットパック



モデルチェンジされた「新型セミダンプ式ジェットパック」

コントロールを1カ所に集約した3連メータを採用し、操作性と視認性の向上を図った。



ちなみに、極東ジェットパックには、今回のダンプ式の他に次のタイプがある。

・エアスライド式(一室傾胴排出)…タンク底部に設けたエアスライドキャンバスの布目から噴きだすエアにより粉粒体を流

動化させ、タンク中央部の排出口に集めるエアスライド式を採用した車両。セメント・フライアッシュ等の流動性が良い粉粒体の排出に適している。

・エアレーションブロー式(多槽式排出)…セメント、石灰、化学薬品等の粉粒体をエアレーションブロー式で長距離・高所排出できる汎用性が高い車両。特に粗粒子排出に威力を発揮する。

コンパクト性を追求した 配電工事用省スペース高所作業車を発売

(株)アイチコーポレーション(本社:埼玉県上尾市、三浦治社長)は、コンパクト性を追求した配電工事用省スペース高所作業車「SN13A1FS」を2017年4月に発売した。

■主な製品の特長

(1) コンパクトな車体でコンパクトな運用

架装シャシークラス2.0t、車幅1,735mm、車高2,530mm、最小回転半径5,500mmのスペックにより、配電工事用高所作業車の活動範囲を大きく広げる。

(2) 4段ブーム採用とバケットの小型化

4段ブームによる最小ブーム長さの短尺化、バケット積載120kg(1名)によるバケットの小型化により、道路横断する引込線、通信線を避けての作業位置への移動など、線間割り込みに効果を発揮する。

(3) 前後領域で広い作業範囲

アウトリガー張出幅を4段階設定にしたことで、ターンテーブル中心からバケット先端まで最大作業半径9m、最大地上高13mと、現場環境と作業設備に合わせた幅広い作業に貢献する。

(4) 作業品質を求める充実装備

コンパクト性にこだわりつつ、配電工事に必要な機能を充実させることで作業品質に貢献。[主要標準装備]①500mmバケット昇降、②バケット首振り、③多関節アーム、④490kgウインチ、油圧サブブーム、⑤バッテリーユニット、⑥工具箱(内寸1700×480×530mm)。



配電工事用省スペース高所作業車「SN13A1FS」

型式	SN13A1FS
最大地上高	13.0m
最大作業半径	9.0m
活線作業装置	漏洩電流 0.5mA以下20kV「5分間」※ 電路電圧 20kV「5分間」
消費税込標準価格	28,620千円(オプション別)



話題のニュートラック新製品情報・新情報

コンクリートポンプ…極東開発

国内最長の33メートル級ブームを搭載 新型コンクリートポンプ車「ピストンクリート」発売

極東開発工業(株)は、このたび GVW22トン車級クラスで国内最長となる 33 メートル級ブームを搭載したコンクリートポンプ車「ピストンクリート PY120-33C」を開発し、2017 年 7 月 4 日に発売した。

新機種は、機動性の高い大型ショートホイールベースシャーシであるGVW22トン車に、高張力鋼板の採用やブームの最適設計による軽量化により従来機種比 3 メートル長を実現した 33 メートル級ブームを搭載したピストン式コンクリートポンプ車で、取り回し性能の良さとクラス最長ブームで、様々な現場においてより効率的な作業を可能としている。同機種はコンクリートポンプ車の国内トップメーカーとして、現場での使いやすさを徹底的に追求したモデルとなっている

なお、希望小売価格は 7,900 万円(消費税抜き・シャシ価格込み)で、年間販売目標台数は 50 台としている。

■ピストンクリート RPY120-33C の特長

(1) GVW22トン車級クラスで国内最長の 33メートル級ブーム搭載

機動性の高い大型ショートホイールベースシャーシであるGVW22トン車に、高張力鋼板の採用やシリンダの小型化および油圧の向上など、ブームの最適設計による軽量化を実現した 33 メートル級 M 型4段屈折ブームを搭載。

高い機動力とクラス国内最長のブームにより、あらゆる現場で効率的な作業に貢献するオールマイティーなピストン式コンクリートポンプ車である。

(2) クラス最長のロングストロークシリンダで騒音、振動を低減

メイン油圧シリンダは、クラス最長のロングストローク 1,900 mmで、S パイプの切替回数を減少。これにより、作業時の振動や騒音を抑制。

また、ショックの回数が少なくなりオペレータへの負担が軽減するとともに、周辺部品やコンクリートピストン等の部品の消耗を抑えることができる。

(3) 旋回台内部とブーム屈折部分の貫通式パイプに耐摩耗性能と耐圧力を兼ね備えたエッサーツインパイプを標準装備

旋回台内部とブーム屈折部分の貫通式パイプには、内層・外層の二重構造による耐摩耗性と耐圧力を兼ね備えたエッサーツインパイプを標準装備。表面のみ硬度を上げた高周波焼入処理パイプとは異なり、内層全肉厚にわたり高い耐摩耗性を有し、長寿命を実現している。

(4) 極東が開発した独自の制振装置で優しい打設作業

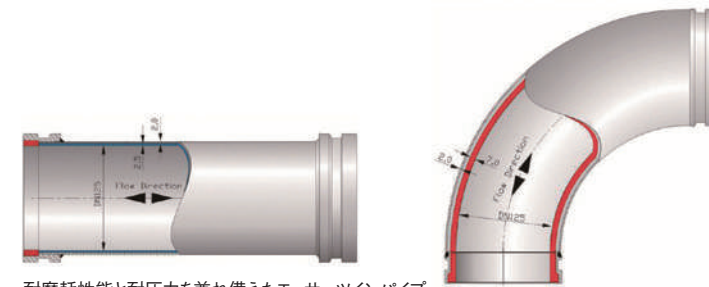
ブームに掛かる荷重をサスペンション機能により軽減し、揺れを抑える同社が独自開発した制振装置(KAVS)を搭載。耐久性アップと、オペレータの負担を低減し、作業環境を向上できる。



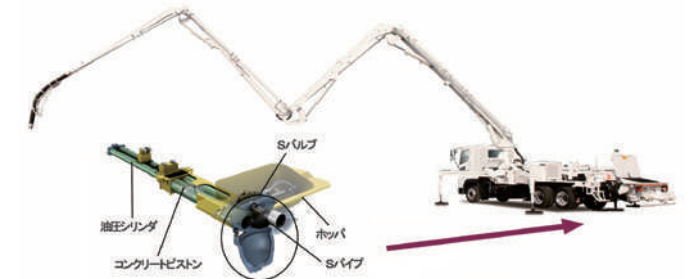
33メートル級ブームを搭載した「ピストンクリート PY120-33C」



軽量化を実現した 33 メートル級 M 型4段屈折ブームを搭載



耐摩耗性能と耐圧力を兼ね備えたエッサーツインパイプ



クラス最長のロングストロークシリンダを装備したポンプユニット



独自開発した制振装置(KAVS)

話題のニュートラック新製品情報・新情報

2017 年モデル…三菱ふそう

「キャンター」2017年モデルを発売 平成28年排出ガス規制に適合させ「EX」に2機種追加

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は、小型トラック「キャンター」2017 年モデルを 2017 年 6 月 29 日より全国の三菱ふそう販売会社及び三菱ふそう地域販売部門から発売した。

小型トラック「キャンター」2017 年モデル車両総重量 7.5t 超車は、4P10 (T6) 改良型エンジンを搭載し、平成 28 年排出ガス規制に適合している。

「キャンター EX」は従来の K 尺車(4,750mm)に、ホイールベース違いの 2 機種(G 尺:3,850mm、H 尺:4,300mm)を追加設定し、架装の充実性を図るとともに、用途に合わせた選択の幅を拡げている。

また、2017 年 3 月より新設された「準中型免許」制度に対応するため、2016 年 12 月より車両総重量 7.5t 車の 26 機種追加設定を行い、ユーザーニーズに対応している。

東京地区販売価格(税込)は、車

型 2RG- FEC90K73S008、4P10 (T6) 改良型 129KW (175PS) エンジン搭載、6 速 Duonic2.0、アイドリングストップ&スタート付きの平ボデー仕様で 6,075.00(千円)となっている。



「キャンター」2017年モデル(撮影用特別仕様車)

平成 28 年排出ガス規制適合の中型トラック 燃費性能と安全性を向上させた「新型コンドル」登場

UDトラックス(株)は、このたび平成 28 年排出ガス規制に適合した新型中型トラック「コンドル(Condor)」を発売した。なお、新型「コンドル」はいすゞ自動車(株)からの OEM 調達車となる。

UDトラックスの新しい中型トラック「コンドル」は、ゆるぎない安心感をもたらす物流の課題に立ち向かうユーザーの良きビジネスパートナーとして、中型トラックに求められる燃費性能・安全性能・運転性能を備え、さらに UDトラックスの万全のサポート体制により効率的な物流を実現する車両だ。

新型「コンドル」は、エンジン出力・キャブタイプ・駆動形式など、従来モデルに比べバリエーションも豊富とした。機械式オートマチックトランスミッションを新たに設定し、ユーザーのビジネスニーズに応える幅広い車種を取りそろえている。また、フロントグリルには UDトラックスの基本モチーフであるヘキサゴングリルを採用し、新型「コンドル」が UD ファミリーの一員であることを表している。

■新型「コンドル」の商品特長

【燃費性能】

軽量・コンパクトでありながら高効率を実現する「4HK1」エンジンは、輸送コスト低減に大きく貢献する。無駄な燃料消費を抑制し、排出ガスの削減に効果的なエコストップ(アイドリングストップ&スタートシステム)、エンジン回転数・燃料噴射量を自動制御して過剰な加速を抑える ECONO (エコノ) モー

ド、先進的なターボシステム・燃料噴射システムなどの採用により、環境性能と積載性・燃費の高効率化を実現。エコストップ(アイドリングストップ&スタートシステム)付き GVW8t ~ 14.5t の 4 × 2 全車で平成 27 年度重量車燃費基準 + 10% を達成させている。

【安全性能】

新型「コンドル」は、アクティブセーフティ(危険を予測し、ドライバーをサポート)・パッシブセーフティ(被害を最小限に抑える)・ベーシックセーフティ(日々の安全運行を支援)の 3 つの観点から安全性能を強化。特にアクティブセーフティとして、ミリ波レーダーとカメラで二重検知するプリクラッシュブレーキや車線逸脱警報、ミリ波車間ウォーニングなど先進の安全技術を採用。ユーザーの日々の安全運行を強力にサポートする。

【運転性能】

信頼のマニュアルトランスミッションに加え、シフトレバーの操作のみで変速が可能なクラッチペダルレスの「機械式オートマチックトランスミッション(AMT)」を全車に設定。省燃費自動変速を行なう ECONO (エコノ) モードにより、すべてのドライバーに快適な操作性と省燃費運転を提供する。

広いインテリアは、操作性・視認性に優れるとともに、センターコンソールボックスをはじめとした収納系装備も充実。運転時だけでなく、室内での作業時にもドライバーに快適かつ効率的な環境を提供している。



中型自家用・観光用バス「ガーラミオ」を改良し発売 平成 28 年排出ガス規制への対応と AMT の採用

いすゞ自動車(株)は、中型自家用・観光用バス「ガーラミオ」を改良し、2017 年 7 月 21 日より全国一斉に発売した。

いすゞの中型自家用・観光用バス「ガーラミオ」は、今回の改良により、すべての車種で 2017 年 9 月より適用される平成 28 年排出ガス規制に適合。トランスミッションは AMT(自動変速式マニュアルトランスミッション)を全車に採用し、イーゼードライブを実現させ、ダウンサイズした新型 A05C エンジンの搭載と併せて燃費を向上させている。

なお、目標販売台数(国内)は、中型自家用・観光用バス「ガーラミオ」シリーズで 150 台/年、東京地区希望小売価格(税込)は、車種 2DG-RR2AJDJ、エンジン A05C (A5-VIII) 162kW (220PS) エンジン搭載、6 速 AMT、「M-I」グレード送迎 9 列で 16,545,600 円となっている。



中型自家用・観光用バス「ガーラミオ」

■「ガーラミオ」の主な特長

【排出ガス規制対応】

排出ガス後処理装置として、新たに尿素 SCR を採用し、すべての車種で平成 28 年排出ガス規制に適合。

【全車に AMT を採用】

全車に 6 速 AMT を採用し、誰もが使いやすいイーゼードライブを実現。また、アクセルペダルの踏み込み量と車速に応じて最適なギア段に自動で変速するオートモードに加え、セレクトレバーで操作して手動で変速するマニュアルモードの選択が可能。

【新型ダウンサイズエンジンの採用】

エンジンはダウンサイズを図り 220 馬力 5.1 リッター A05C 新型エンジンを採用、AMT と併せて燃費を向上。



コンビネーションメーター採用の「ガーラミオ」運転席



6 速 AMT

SRS エアバッグ



ISUZU 「ガーラミオ」の 35 人乗り(8 列シート)

【メーター視認性の向上】

ユニバーサルデザインを採用したコンビネーションメーターでは、速度計やエンジン回転計の大径化を図り、メーター内の文字を拡大することで視認性が向上。また、マルチモニターと液晶ディスプレイでドライバーや管理者に各種車両情報・

整備情報を的確に伝達。

【運転席エアバッグの初採用】

運転席 SRS エアバッグおよびプリテンショナー付シートベルトを採用し、ドライバーの安全性が向上。

話題のニュートラック新製品情報・新情報

中型バス…日野自動車

中型バス「日野メルファ」を改良して新発売 平成28年排出ガス規制に適合させ全車にAMTを新採用



日野メルファ ロイヤルサルーン (撮影用特別仕様車)

日野自動車(株)は、中型バス「日野メルファ」を改良し、平成28年排出ガス規制に適合させるとともに、全車にAMT(機械式自動変速機)を搭載して2017年7月21日に発売した。

今回の改良では、エンジンを従来のJ07E型(6.403L)からダウンサイズし、新型A05C型(5.123L)に変更した。小排気量化にもかかわらず大幅にトルクを向上させている。また、トランスミッションを全て6速AMT「ProShift(プロシフト)6」とした。「ProShift6」はドライバーを変速操作から解放し運転時の負担を軽減するだけでなく、電子制御により最適な変速を行うことで、エンジンのトルク向上とも相まって燃費を向上(従来の5速AT車に対し、約9%の燃費向上)させている。あわせて尿素SCRを採用し、平成28年排出ガス規制に適



大径化した新型メーター採用の「日野メルファ」運転席

合させている。

このほか、大径化した新型メーターに液晶表示を採用し視認性を向上、一部灯火類をLED化する等、商品性の向上を図っている。

ちなみに、新型A05C型エンジンは、162kW(220PS)・794N・m(81kgf・m)で、従来のJ07E型エンジンは、AT車が162kW(220PS)・617N・m(63kgf・m)、MT車が169kW(230PS)・657N・m(67kgf・m)となっている。

なお、代表車型「日野メルファ ロイヤルサルーン 35人乗り」の東京地区希望小売価格(税込)は21,238,200円、「日野メルファ デラックス 45人乗り」は16,524,000円。また、年間販売目標台数は日野メルファシリーズ全体で200台としている。



「日野メルファ」室内のシート

話題のニュートラック新製品情報・新情報

路線バス…いすゞ

全車に平成28年排出ガス規制を適合させるなど 大型路線バス「エルガ」を改良し発売

いすゞ自動車(株)は、大型路線バス「エルガ」を改良し、2017年8月8日より全国一斉に発売する。

いすゞの大型路線バス「エルガ」は、今回の改良により、すべての車種を2017年9月より適用される平成28年排出ガス規制に適合させている。また、車両総重量14トン超のAMT車で平成27年度重量車燃費基準+15%を達成している。

また、ヘッドランプに長期間使用可能なLED式ランプを採用することにより、夜間の視認性向上のほか、メンテナンスコスト削減を図っている。

運転席周りではシフトレバー位置と形状の変更により、足元スペースを拡大させ、より快適な運転環境を確保した。

目標販売台数(国内)は、大型路線バス「エルガ」シリーズで600台/年、東京地区希望小売価格は次の通りとなっている。

【東京地区希望小売価格(税込)】

ポスト新長期排出ガス規制適合、平成27年度燃費基準

+15%達成、ノンステップ都市型中乗り、4HK1-TCHエンジン搭載の①2TG-LV290N2(GVW14トン以上)6速AMTで26,639,280円、②2PG-LV290N2(GVW14トン以上)6速ATで27,697,680円、となっている。



いすゞ大型路線バス「エルガ」



「エルガ」都市型(中乗)ホイールベース(5300mm)



「エルガ」都市型(中乗)ホイールベース(6000mm)



車いすの乗降もスムーズな「エルガ」

話題のニュートラック新製品情報・新情報

電気トラック…三菱ふそう

川崎工場で日本初の電気トラック「eCanter」生産開始 ポルトガルでは7月下旬に欧米向け車両を生産開始予定

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は、環境に優しい電気小型トラック「eCanter」の生産を川崎工場にて2017年7月より開始した。

「eCanter」は、今日の都市が抱える、騒音や排出ガスの課題を解決する答えとして、三菱ふそうが川崎で開発した車両である。走行距離は、配送トラックの1日の平均走行距離である100km以上を確保している。「eCanter」は、国産初の量産電気トラックとして、9月に正式発表が予定されている。

今回の生産は、国内向けの車両として、2017年内に



環境に優しい電気小型トラック「eCanter」



FUSO 川崎工場での「eCanter」生産開始イベント風景

50 台組立を行い、その内の 25 台は、(株)セブン・イレブン・ジャパンに納入が決定している。

また 7 月下旬より、連

結子会社三菱ふそうトラック・ヨーロッパ(Mitsubishi Fuso Truck Europe-Sociedade Europeia de Automoveis, S.A.)のトラマガル工場(ポルトガル)にて、欧州・北米向けの

車両 100 台の生産を開始する計画となっている。

三菱ふそうは、生産開始に先駆け、2017 年 5 月に川崎工場内に国内で初めて電気トラック用の急速充電設備「EV Power Charger (EV パワーチャージャー)」を開設している。

MFTBC のオリバー・クルッグ、ライフサイクル・マネージメント本部長は、「当社は、2020 年までにフルレンジの電動車両の導入を計画しており、三菱ふそうは、電動化技術において業界のフロントランナーを目指します」と述べた。

また、MFTBC のスヴェン・グレーブレ生産本部長は、「川崎工場は、電動化技術の開発・生産拠点としての役割を担います。今後は、電気トラック用のコンポーネントの生産を含めた体制作りを計画しております」と語っている。



存在感のある外装デザインの「NV350 キャラバン」

系特装車についても標準車に準ずる仕様・装備の変更を行い、7 月 31 日より発売した。

また、日産産自動車の関連会社である(株)オーテックジャパン(本社:神奈川県茅ヶ崎市、片桐隆夫社長)は、「NV350 キャラバン」のマイナーチェンジにあわせ、カスタムカー「ライダー」、送迎仕様車「送迎タイプ」、車いす仕様車「チェアキャブ」をマイナーチェンジし、日産の販売会社を通じて 7 月 13 日より全国一斉に発売した。

▼ NV350 キャラバン「ライダー」

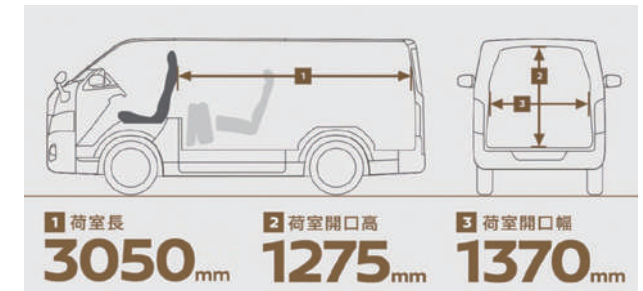
NV350 キャラバン「ライダー」は、仕事でもプライベートでもこだわりの一台を求める人のためのモデルで、2002 年に先代 E25 型のキャラバン「ライダー」を発売して以来、人とは違った個性を表現できる商用車として、ユーザーから好評を得ている。



個性を表現できる商用車として好評の「ライダー」



小型貨物車 4 ナンバーバンクラス初の「インテリジェント アラウンドビューモニター」



広く使い勝手の良い荷室空間の「NV350 キャラバン」

今回のマイナーチェンジではデザインを一新し、より力強く迫力あるフロントマスクとした。また、ユーザーニーズが多かった、サイドスタイル・リヤスタイルの印象を変えるアイテムとして、専用のサイドシルプロテクターやリヤアンダープロテクター、ルーフスポイラーなどを新たにオプション設定し、好みに応じてカスタマイズする楽しみを提供している。さらに、専用の本革巻ステアリングや防水シート、フロントマーカー LED、アルミホイールなどを装備する「プロ・スタイル パッケージ」も設定し、機能

性とスタイリッシュさの両立を求めるニーズにも対応させた。

なお、NV350 キャラバン「ライダー」もベース車と同様に今回のマイナーチェン

話題のニュートラック新製品情報・新情報

マイナーチェンジ…日産自動車

人気の「NV350 キャラバン」がマイナーチェンジ 先進安全装備や利便装備を充実

日産自動車(株)は、「NV350 キャラバン」をマイナーチェンジし、2017 年 7 月 13 日より全国一斉に発売した。

「NV350 キャラバン」は、広く使い勝手の良い荷室空間や存在感のある外装デザイン、インテリジェント エマージェンシーブレーキ(自動ブレーキ)をはじめとした先進装備などがユーザーから高く評価されており、法人ユーザーからレジャーや趣味を楽しむ個人ユーザーまで、幅広い人々に選ばれている。

今回のマイナーチェンジでは、魅力的な先進安全装備や利便装備を充実。バンの 2WD 車の一部のバリエーションのみの標準設定だった「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」、「VDC(ビークルダイナミクスコントロール、TCS 機能含む)」、「ヒルスタートアシスト」をバン全車に拡大し標準設定とし

た。また、小型貨物車 4 ナンバーバンクラスで初めて「インテリジェント アラウンドビューモニター(移動物検知機能付)」を装備。資材などが置かれた狭い駐車スペースや荷物で後方視界が遮られている際などにも、安全な運転をサポートできる。

利便性では、住宅街や深夜・早朝などで大きな音を立てずに全閉できる「バックドアオートクローザー」や視認性に優れた液晶モニターと大きなスイッチにより操作性を向上させた「オートエアコン+リヤクーラー」を設定した。

エクステリアでは、日産デザインを象徴する「V モーショングリル」をよりダイナミックに強調し、力強さを表現。また、ヘッドランプ(ハイ/ロービーム、オートレベライザー付)、リヤコンビネーションランプに LED を採用することで精悍な印象とし、視

認性も向上させた。さらに、「プレミアム GX」、「GX」グレードのインテリアでは、シルバー加飾を施したモダンなステアリングを設定するとともに、ブラック生地にホワイトのラインをランダムに配したシートファブリックを採用するなど、プレミアム感を高めた。

グレード体系では、エクステリアを中心に上級グレードに準ずる仕様・装備とした「VX」グレードを追加した。なお、商用車



NV350 キャラバン バン プレミアム GX (オプション装着車)



NV350 キャラバン「ライダー」の運転席

ジで、「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」、「VDC（ビークルダイナミクスコントロール）」、「ヒルスタートアシスト」をバン全車に標準設定したほか、「インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物検知機能付）」や「バックドアオートクローザー」など、先進安全装備や利便装備を充実させている。

▼ NV350 キャラバン「送迎タイプ」

多人数を送迎するのに最適なモデル。10 人乗りワゴンと 14 人乗りマイクロバスをベースに、スムーズな乗降を実現する「専用シートレイアウト」（10 人乗りワゴンのみ）、手すりやグリップ、スライドドア開閉に連動して出てくる「オートステップ」などを装備した。



多人数を送迎するのに最適な NV350 キャラバン「送迎タイプ・ワゴン GX」

今回のマイナーチェンジで、「ワンタッチオートスライドドア（助手席側）（挟み込み防止機能付）」を標準設定した「送迎タイプワゴン GX（標準幅ロングボディ 標準ルーフ）」を新規設定した。

さらに全グレードで「インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物検知機能付）」を選択でき、ドライバーにも配慮している。

▼ NV350 キャラバン「チェアキャブ」

簡単なリモコン操作で昇降する全自動リフターを装備し、車両後部から車いすやストレッチャーのまま車内に乗り込めるモデルで、主に福祉施設・病院の送迎用、福祉・介護タクシーのニーズに応える車両となっている。

広い室内スペースと高いスライドドア開口を活かし、十分な介護スペースと多彩なシートアレンジを実現した 3 つの仕様を設定した。

今回のマイナーチェンジでは前型モデルの車いす 1 名仕様（C 仕様）を、いざという時にもう 1 名車いす乗車ができる「車いす 1 + 1 名仕様」に仕様向上させた。

さらに先進安全装備「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」、「VDC（ビークルダイナミクスコントロール）」、「ヒルスタートアシスト」、ならびに、「インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物検知機能付）」を標準設定した。



「送迎タイプ ワゴン GX」の室内



「チェアキャブ・車いす 2 名仕様」の室内



全自動リフターを装備した NV350 キャラバン「チェアキャブ・車いす 2 名仕様」

話題のニュートラック新製品情報・新情報

再生事業…いすゞ自動車

いすゞがコロンビアで中古エンジン再生事業に進出 ユーザー車両のランニングコスト低減に貢献

いすゞ自動車(株)は、米国 HELM ホールディング傘下でコロンビア国内に広域の修理・整備網を持つナショナルトラック サービス社 (National Truck Service = NTS) とユーザーの車両維持コスト低減と資源の有効活用を目的とした合併会社、『いすゞ レマヌファクトゥーラ デ コロンビア社 (ISUZU REMANUFACTURA DE COLOMBIA S.A.S. = IRC)』を設立することで合意した。

IRC は首都ボゴタ市に設立し、いすゞ車向けの車両用中古エンジンの再生(リマニ生産)事業を行う。いすゞは、2008 年より同国に新車販売のマーケティング会社 GM-Isuzu Camiones Andinos de Colombia, Ltda. 社 (GMICA - Colombia) をゼネラルモーターズ・サウスアメリカ社 (本社：サンパウロ) と合併で設立しており、再生エンジン事業においても同社との協業を進めて行くことになる。

いすゞは同国商用車市場にお

いて 50%を超える高いシェアを持っており、車両の供給に加え高品質の再生エンジンを提供することで、ユーザーの車両のランニングコスト低減に貢献し、「運ぶ」を支えて行くとしている。

■新会社「IRC」概要

◇名称：ISUZU REMANUFACTURA DE COLOMBIA S.A.S. (いすゞ レマヌファクトゥーラ デ コロンビア)

◇所在地：コロンビア共和国首都ボゴタ

◇代表者：植永浩二

◇事業内容：車両用中古エンジン再生事業 (リマニ生産事業)

◇資本金：2,500,000 米ドル (約 2.7 億円)

◇設立年月：2017 年 7 月

◇営業開始：2017 年 11 月

◇出資比率：いすゞ 46%、いすゞエンジン製造北海道 5%、National Truck Service 49%



いすゞの高性能ディーゼルエンジン(6UZ1 型) ※参考写真

話題のニュートラック新製品情報・新情報

社長交代…スカニアジャパン

北米で大きな実績を築き上げた ミケル・リンネル氏がスカニアジャパン新社長に

スカニアジャパン(株)(本社：東京都港区)は、2017 年 7 月 1 日付の社長交代人事を発表した。

現社長ヨハン・ルンデン (Johan Lunden) 氏の後任として、Scania USA(本社：アメリカ テキサス州)の社長ミケル・リンネル (Mikael Lindner) 氏がスカニアジャパン(株)の代表取締役社長に就任した。

新社長となったミケル・リンネル氏は、スウェーデン生まれで 2003 年にスカニア本社に入社。マリンエンジン・発電機 セールズ部長を経て、2012 年より Scania USA の社長となり、北米におけるディーラーネットワークを着実に拡大させ、スカニ

アブランドの北米での確固たる地位を築き上げた実績を持っている。

スカニアジャパンはミケル・リンネル新社長体制のもと、国内における販売・サービスネットワークの一層の強化を進めて行くとしている。



スカニアジャパン新社長のミケル・リンネル (Mikael Lindner) 氏



SCANA のトラックは日本でも高く評価されている

話題のニュートラック新製品情報・新情報

EV 調査…日産自動車

所沢市と電気自動車普及推進のため 日産EV9台を活用し長期モニタリング調査を実施

日産自動車(株)は、2017 年 4 月に所沢市と締結した「電気自動車の普及推進に関する連携協定」に基づき、2017 年 7 月から 2018 年 1 月まで、所沢市が行う電気自動車(EV)を活用したモニタリング調査に協力していくと発表した。調査の実施には、所沢市が導入した「日産リーフ」6 台と「e-NV200」3 台の計 9 台の EV が活用される。

この電気自動車モニタリング調査は、所沢市民や市内事業者等を対象に実施するもので、今後の EV 普及推進のための効果的な方策立案の一助とすることが狙となる。日常生活におけるさまざまな用途で、EV を活用し、その利用形態や走行・充電状況など、利用状況を分析する。日産は、活用状況の調査・検証に必要なモニター車両の走行データを提供するほか、地元販売会社の埼玉日産自動車と共に運営をサポートする。

所沢市で今年 6 月から開始したモニター公募には、300 件を超える申し込みがあり、この中から選出される一般市民や事業者計 18 モニターが、その用途に応じて、今後 2 ヶ月から 6 ヶ月の間、各々の目的に応じて EV を活用することになる。

対象となるモニターには、自家用車としての使い方の他、駅から徒歩圏外の職場への通勤の足としての共同利用や郊外の買い物不便地域における共同利用も視野に入れており、CO₂削減効果のみならず、移動の効率化や利便性の向上等、昨今の街づくりにおけるヒントが得られることも期待されている。

自家用、事業用、共同利用など、さまざまな使い方でのモニタリングはこれまでに例がなく、この取組による新たな発見が更なる EV 普及促進策立案に繋がるとしている。

なお、7 月 20 日、所沢市役所西口玄関前広場で「電気自動車モニター出発式」が、所沢市の藤本正人市長、日産理事の石井裕晶渉外担当役員の他、市民モニター代表等の出席の下、盛大に執り行われた。

日産は、今年 4 月、「マチごとエコタウン所沢構想」を掲げる所沢市と電気自動車の普及推進に関する連携協定を締結。今後は、本モニタリング調査を柱に、所沢市が行う EV 普及推進イベントや、災害時における EV 活用スキームの構築サポート等、EV の更なる普及に取り組んでいくとしている。



低公害 EV 車として人気の「日産リーフ」

日産の EV 商用車「e-NV200」



電気自動車 e-NV200 は電源供給用にも利用できる

話題のニュートラック新製品情報・新情報

社会貢献…マツダ

MAZDA スタジアムの累計来場者 1,500 万人達成を記念し 福祉車両を社会福祉団体に贈呈

マツダ(株)は、2017 年 7 月 2 日に「MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島」の累計来場者数 1,500 万人達成を受け、「社会福祉法人 三矢会 太田川学園第 4 成人部」(広島市安佐南区)に、福祉車両「マツダ ビアンテ GRANZ オートステップ車」を贈呈した。

今回の贈呈にともない、7 月 29 日に同球場で開催される「広島東洋カープ対東京ヤクルトスワローズ」の試合開始前に、マツダの小飼雅道代表取締役社長兼 CEO より、贈呈先の代表者に目録を渡すセレモニーが行われた。

この取り組みは、マツダが広島市民球場の命名権に応募した際に、社会貢献活動のひとつとして広島市に提案したもので、2009 年以降の来場者数が 100 万人を達成するとともに、社会福祉法人 広島市社会福祉協議会により選定された社会福祉団体にマツダの福祉車両 1 台を贈呈している。

今回の贈呈にあたり、マツダの小飼社長は「『MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島』の累計来場者数 1,500 万人達成をお祝い申し上げます。マツダの福祉車両が、贈呈先の皆さまにとってかけがえのない存在になることを願っております。

す。ファンの声援が選手のパワーとなり、選手はプレーでファンの期待に応える、というつながりは、『お客様の期待を超えるクルマづくりで感動をお届けする』という私たちが目指すべきお客様との関係性を、体現していると感じています。これからもマツダ車が、多くの方の人生を輝かせる存在であり続けることを期待しています」と語った。

マツダは、今後も社会の一員として地域の人々から、より親しまれる企業になるべく、継続的に社会貢献活動に取り組んで行くとしている。



福祉車両「マツダ ビアンテ GRANZ オートステップ車」

話題のニュートラック新製品情報・新情報

物流環境大賞…ヤマト運輸

第18回物流環境大賞「物流環境保全活動賞」を受賞 Fujisawa SSTにNext Delivery SQUAREを開設しエコ物流を実現

Fujisawa SST 協議会(代表幹事：パナソニック(株))とヤマトホールディングス傘下のヤマト運輸(株)は、2016 年 11 月 1 日、Fujisawa サスティナブル・スマートタウン(Fujisawa SST)に、一括配送など街の物流インフラを担う「Next

Delivery SQUARE (ネクストデリバリースクエア)」を開業した。このたび、一般社団法人 日本物流団体連合会主催の第 18 回物流環境大

賞において、物流効率化など環境負荷を低減する取り組みが評価され、「物流環境保全活動賞」を受賞した。

物流環境大賞は、日本物流団体連合会が主催し、物流部門における環境保全の推進や環境意識の高揚を図ることを目的に、物流の健全な発展に貢献した団体・企業または個人を表彰する制度である。平成 12 年に創設され、今回で 18 回目を迎える。

受賞内容の審査結果は、「物流環境保全活動賞」で、功績事項として、Fujisawa SST の総合的な物流インフラ「ネクストデリバリースクエア」となる。

Fujisawa SST は、神奈川県藤沢市で 1,000 世帯もの家族の営みが続くリアルなスマートタウンとして、技術先行の



表彰式の様子。物流連工藤泰三前会長(左)とヤマト運輸の白井祐一常務

インフラ起点だけでなく、住人ひとりひとりの暮らし起点での街づくりに取り組んでいる。

Next Delivery SQUARE では、これまで宅配事業者が各々に届けしていた荷物を集約し、台車や電動アシスト自転車などでヤマト運輸が一括配送することで、走行車両を減らし、CO₂排出量の削減と安全性を向上させた。

平成 29 年 3 月からは届け予定や不在連絡の情報を家庭

に設置したスマートテレビに配信し、利用者はテレビ画面からまとめて届け日時や受取場所を変更でき、エコでスマートに荷物を受け取れるようになった。

また、Next Delivery SQUARE は、エネルギーを生み出すスマートな施設として、太陽光発電や LED 照明を導入し、街全体の環境負荷の低減にも貢献している。



Next Delivery SQUARE の外観



Fujisawa SST 内を台車で配送



Fujisawa SST 内を電動自転車配送

みをアピールするとしている。

■エコモビリティ世界フェスティバル

2 年に 1 度の隔年開催のエコモビリティをテーマにした国際フェスティバルで、開催期間中の 1 ヶ月間、開催都市が指定する区域における自動車通行を制限し、公共交通機関、歩行、自転車など、環境に配慮した交通機関の利用を促進し、「エコ・モバイル」な未来像を参加者に体験してもらうことを目的としている。このフェスティバルはこれまでに、南アフリカ・ヨハネスブルグ(2015 年)と韓国・水原(2013 年)で開催されている。

今回3回目となる「エコモビリティ世界フェスティバル 2017」は、2017 年 10 月に台湾の高雄市で開催される。大会が開催される 1 ヶ月間、歴史的な哈瑪星(はません)地区の道路が、エコモビリティ(歩行、自転車、公共交通、シェアリング、電気自動車)のための専用スペースに取って代わる。同地区は、高雄市の交通や経済の中心として栄えた歴史あ

るエリアとして知られており、現在は観光スポットとしても親しまれている。フェスティバルは、エコモビリティを通じて、都市が先進的な都市交通文化を創出できることを示すことを目指すことになる。

《エコモビリティ世界フェスティバル 2017》

・開催期間:2017 年 10 月 1 日～ 31 日「エコモビリティ世界フェスティバル」／ 2017 年 10 月 2 日～ 4 日「エコモビリティ世界大会」

・開催場所:台湾・高雄市

・目的:エコモビリティを通じて、都市が先進的な都市交通文化を創出できることを示す

・主なテーマ:「住みやすさ 一道路を再び歩行者のもとへ」、「シェアリング 一住民へ幅広い交通手段を提供」、「インテリジェント 一交通手段の統合とエコモビリティへのアクセスを促進する技術活用」

・主催:イクレイ、高雄市

話題のニュートラック新製品情報・新情報

エコモビリティ…台湾・高雄

エコモビリティ・ワールド・フェスティバルで無人自動運転バスの一般試乗を開始

台湾の高雄市政府交通局は、2017 年 6 月に無人自動運転バス 2 両を導入し、市内の駁二芸術特区で走行試験を行っていたが、この 10 月から一般試乗を行うと発表した。同局はこれにより「都市の公共交通サービスに変革をもたらす」としている。

同市政府は今年 4 月にフランスの自動運転電気自動車メーカー「イージーマイル」などと協力覚書を交わし、本格的な自動運転バスの導入を積極的に検討していた。高雄氏の陳市長は自動運転バスの導入後、高雄メトロ(MRT)やバスなどの公共交通と合わせて多様で地域に合った最先端の交通サー

ビスを市民に提供することで交通事情の改善に期待したい、と語っている。

自動運転バスの一般試乗は 10 月に高雄市で開催される「エコモビリティ・ワールド・フェスティバル 2017」に合わせ開始する予定となっている。

エコモビリティ・ワールド・フェスティバルは、環境にやさしい交通手段の導入をテーマにした国際フェスティバルで、世界各地から研究者や学者らが集まることになっている。同市はモデルエリアを設け、自動運転バスやライトレールなどさまざまな公共交通を体験してもらうことでエコ交通推進への取り組み



高雄市政府交通局が導入を進めている無人自動運転バス



話題のニュートラック新製品情報・新情報

交通多様化プロジェクト…トヨタ

ベトナム・ダナン市での交通多様化プロジェクトにおいてバスの運行とパーク&ライドシステムの運用を開始

一般財団法人トヨタ・モビリティ基金(Toyota Mobility Foundation = TMF)が助成するベトナムのダナン市での交通渋滞多様化プロジェクトにおいて、2017 年 6 月 30 日にオープニングセレモニーを開催し、TMF バス(市内循環バス)の運行とパーク&ライドシステムの運用を開始した。

ダナン市はベトナム、ラオス、タイ、ミャンマーを結ぶ「インドシナ東西経済回廊」の玄関口に位置し、急激な人口の増加と経済成長により、モータリゼーションが進展しており、バイクや自動車の登録数がこの 5 年で約 40%上昇し、将来的に渋滞が深刻化することが懸念されている。

本プロジェクト(期間:2015 年 7 月から 2019 年 3 月)では、ダナン市人民委員会を助成先とし、自家用車、バイク、

公共交通機関を併用した交通手段の多様化によって、市民の移動手段に関する行動様式の変容を促し、渋滞の深刻化を未然に防ぐことを目指している。助成総額は約 290 万ドル(約 3.2 億円)で、主な施策は次の通りとなる。

【TMF バス(市内循環バス)】

市内バス路線に接続する、フィーダーバスと呼ばれる支線バスの役割を持ち、ダナン市の都市開発計画に合わせて、市営バスを始め、他の交通手段との接続性を考慮したルートを走行する。また、通勤・通学の利用者だけでなく、家族連れや旅行者など様々な利用者にとってバスでの移動が安全で快適になるよう配慮している。

◇運行概要



オープニングセレモニー(左)と初運行に向かう TMF バス(市内循環バス)

- ・市街地と住宅地を結ぶロングルート、および市街地を循環するショートルート
- ・合計 8 台(40 人乗り 6 台、28 人乗り 2 台)の車両
- ・バスを利用するきっかけ作りのため、当初 1 年間の運賃は無料

・次年度以降の運賃は利用状況に合わせて決定し、他の交通手段と統合された電子支払システムを導入予定

◇安全で快適な移動体験

・全車両へエアコンおよびベトナム語と英語(観光客向け)の案内表示を設置

・主要なバス停に電子掲示板を設置し、GPS によるバスの位置情報などの運行状況を表示

・全てのバスドライバーへの安全運転とエコドライブ教育の実施【パーク&ライドシステム】

自家用車やバイクを駐車場に止め、バスへの乗り換えを促進するために、「路外駐車場」と「路上駐車場」を整備した。その際、IT 技術も活用し市民にとって安全で使いやすい仕組みづくりに配慮した。

◇路外駐車場

・バスの発着場であるバスターミナルに併設

・車番認識カメラ機能をもつ自動開閉ゲートを設置し、車番とIC カード駐車券を連動させることで車両盗難を防止

・バスへの乗換えを促進するため、サービス開始時の駐車料金は無料(利用状況に応じて決定)

◇路上駐車場

・バスルート上の川沿いのメインストリートを中心に 100 台規模の駐車スペースを整備

・駐車料金の支払いには、ダナン市民が使い慣れている携帯電話によるプリペイド式決済システムを採用

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

ダナン市人民委員会の副委員長のズン氏は、「ダナン市において交通手段の多様化を実現することは、中長期的な市民生活の質の向上において重要である。TMF バスとパーク&ライドシステムの運用開始は、その記念すべき一歩である。今回、昨年末から運行開始した市内バス路線とリンクした TMF バスとパーク&ライドシステムの運用が始まったことで、

市民にとって利便性が増す。将来的なダナン市の発展を見据えた TMF の貢献に感謝する」と述べた。

TMF の永田理事務局長(兼トヨタ自動車㈱取締役・副社長)は「TMF バスおよびパーク&ライドシステムは、ダナン市人民委員会を始め、ハイチャウ区、トヨタ・モーター・ベトナム(TMV、トヨタ現地法人)など、多くの皆様のご協力によって開始することができた。心より感謝を申し上げる。今後は、実際の利用状況を踏まえて改善を行い、より良いモビリティサービスの実現に向け、関係者の皆様と一体となって取り組んでいきたい」と語った。

トヨタ・モーター・ベトナム(TMV、トヨタ現地法人)社長の木下徹氏は、「ダナン市の交通手段の多様化を目指す本プロジェクトに参加することは、地域に貢献し企業市民として活動する重要な機会となる。これまでもベトナム各地での交通安全のプログラムの実施などを行ってきた。今回のプロジェクトにおいても TMF バス用に 2 台の 28 人乗りバンを寄贈し、安全な運行のためのメンテナンスの実施等を行っていく。ぜひ多くの人々に利用していただき、ダナン市の移動手段として定着することを願っている。今後も本プロジェクトに必要なサポートを提供していく」と述べている。

TMF は、2014 年 8 月の設立以来、豊かなモビリティ社会の実現とモビリティ格差の解消に貢献することを目的に、タイやインドでの交通手段の多様化や、日本の中山間地域における移動の不自由を解消するためのプロジェクトに助成するなど、世界のモビリティ分野における課題に取り組んでいる。

今後も、トヨタの技術・安全・環境に関する専門知識を活用しながら、大学や政府、NPO や調査研究機関等と連携し、都市部の交通課題の解消、パーソナル・モビリティ活用の拡大、次世代モビリティ開発に資する研究などの取り組みをさらに拡大していくとしている。

9 月には関係者を招いての開所式を実施予定となっている。

矢崎セルビアでは 2019 年末までに 1,700 人を雇用する予定で、事業のさらなる強化を図ることになる。

■矢崎セルビア有限会社の概要

◇所在地：セルビア共和国 マチュヴァ郡 シャバツ市

◇登記日：2016 年 5 月

◇代表者：Claus Patrick Nottbrock (ゼネラル・マネージャー)／Zeljko Cvijan (工場長)

◇従業員数：322 名(2017 年 5 月 31 日時点)

◇主な生産品目：自動車用ワイヤーハーネス

◇敷地面積：68,575㎡



セルビアで初となる矢崎グループの製造拠点

話題のニュートラック新製品情報・新情報

情報発信拠点…トヨタ L&F

「トヨタ L&F カスタマーズセンター大阪」を新設 物流改善ニーズに応えるソリューション体験型ショールーム

(株)豊田自動織機・トヨタ L&F カンパニーは、大阪府吹田市に「トヨタ L&F カスタマーズセンター大阪(CC 大阪)」を新設した。

CC 大阪はフォークリフト販売 60 年、物流システム販売 30 年で培ってきた物流ノウハウに豊富な商品ラインアップを組み合わせ、ユーザーに最適な物流ソリューションを提案、体験してもらうことを可能にしたショールームである。流通業や製造業など業種別の物流課題に焦点を当てた展示や、VR(仮想現実感)・AR(拡張現実感)を活用した映像展示を新たに導入するなど、商品の機能や使いやすさ、改善の効果をユーザーに確認・イメージしてもらえる。



「トヨタ L&F カスタマーズセンター大阪」完成予想図

完成の後は、東京、愛知に続く第3の情報発信拠点として、商品展示と物流ソリューションの提供を通じて、ユーザー目線での物流課題の解決に磨きをかけ行くとしている。

6 月 1 日の安全祈願祭では、トヨタ L&F 販売店の関係者、工事関係者および同社の社員を含む約 40 人が出席し、建設工事が無事に完了するよう玉串を奉饗し、安全を祈願行った。なお、CC 大阪の竣工は、2018 年 5 月を予定している。

■CC 大阪の施設概要

◇名称：トヨタ L&F カスタマーズセンター大阪

◇所在地：大阪府吹田市芳野町

◇敷地面積：約 5,700㎡

◇延床面積：約 8,000㎡・地上 4 階建て

◇竣工時期：2018 年 5 月予定

話題のニュートラック新製品情報・新情報

海外拠点…矢崎総業

自動車用ワイヤーハーネス製造をセルビア共和国で開始 セルビアでの製造拠点は矢崎グループとして初

矢崎総業㈱(本社：東京都港区、矢崎信二社長)は、セルビア共和国に自動車用ワイヤーハーネスを製造する新会社を設立し、2017 年 7 月 4 日より量産を開始した。

新会社は矢崎セルビア有限会社(Yazaki Serbia d.o.o.)で、矢崎ワイヤリング・テクノロジー 有限 会 社(Yazaki

Wiring Technologies GmbH)の 100%子会社になる。資本金は約 120 百万円(120 百万セルビアン・ディナール)、投資額は約 30.6 億円(25.1 百万ユーロ)となる。

矢崎セルビアでは主に欧州のトラックメーカーの自動車用ワイヤーハーネスを製造し、7 月より顧客への納品を開始。また、

話題のニュートラック新製品情報・新情報

発明大賞…日本発明振興協会

発明が世界を変える、社会を育てる 第43回発明大賞の応募が現在受付中

独創性に富む発明によって優秀な技術・製品を生み出した中堅・中小企業(資本金 10 億円以下の企業)の人達(個人またはグループ)を表彰する第 43 回「発明大賞」の応募が開始された。中堅・中小企業を対象とした表彰制度の中で最も

歴史が古く、関係諸官庁をはじめ、広く一般からも高い評価を得ているのがこの「発明大賞」である。

テーマは「発明が世界を変える、社会を育てる」で、主催は公益財団法人日本発明振興協会と日刊工業新聞社。文部

科学省、経済産業省、特許庁、中小企業庁、東京都、日本商工会議所、日本弁理士会、東京商工会議所、(地独)東京都立産業技術研究センターが後援する。

応募された発明は、学識経験者による審査委員会(審査委員長＝菅野卓雄東京大学名誉教授)を開き、厳格・適正に審査を行う。表彰として、「発明大賞本賞」1件に賞状と副賞100万円、「発明大賞東京都知事賞」1件に賞状と副賞50万円、「発明大賞日本発明振興協会会長賞」1件に賞状と副賞50万円、「発明大賞日刊工業新聞社賞」1件に賞状と副賞50万円、その他、「発明功労賞」7件に賞状と副賞20万円、「考案功労賞」10件に賞状と副賞10万円、「発明奨励賞」5件に賞状が授与される。

募集期間は、平成29年7月1日(土)～9月30日(土)まで、審査結果は2018年3月初旬に日刊工業新聞紙上において発表される。応募にあたっては、申請書と所定の添付書類の提出が必要となる。詳細はHP (http://form.nikkan.co.jp/r/c.do?1eL4_1t1V_24Y_aes)をご覧ください。

ちなみに、前回の第42回受賞案件は次の通り
・発明大賞本賞…「らせん状回転流を利用した揮発性物

質の濃縮装置」(株式会社バイオクロマト／第一三共 RDノバーレ株式会社)

・発明大賞東京都知事賞…「果実表面と接触しない果物個別包装容器」(アイ・イート株式会社)

・発明大賞日本発明振興協会会長賞…「胴部材の芯材と軸材を摩擦接合した圧延ロール製造方法」(株式会社 フジコー)

・発明大賞日刊工業新聞社賞…「断面形状が波形の集水管」(株式会社 藤進)



話題のニュートラック新製品情報・新情報

生態系保護…横浜ゴム

発明が世界を変える、社会を育てる 国情調査の対象に認定され本格的調査を開始

横浜ゴム(株)の中国の事業統括会社である優科豪馬橡膠股份有限公司が支援する生態系保護プロジェクトが、中国国務院から国情調査の対象に認定され、2017年5月23日から本格的調査が開始された。

調査では国連開発計画、中国社会科学院(国務院直属の最高学術機構)、環境NGO「麗江健康環境研究センター」がプロジェクトの進捗を確認。国情調査は中国の政策決定に重要な役割を果たす調査で、同プロジェクトは中国において最も環境保護の成功が見込めるプロジェクトとして調査対象に認定された。

優科豪馬橡膠が支援する生態系保護プロジェクトは、雲南省麗江市老君山自然保護区内の山村における森林伐採のみに依存した経済を農畜産物生産に転換し生態系を保護しようとするもの。優科豪馬橡膠は同プロジェクトに賛同し2011年から河源村、2015年から黎光村で行われている活動を支援しており、農畜産物生産への転換に必要な融資を行う「村バンク」の設立、蜂蜜採取や葡萄栽培などに必要な

設備の寄贈、農畜産物の販売組織立ち上げ、子供の教育支援など住民が自らの生産物を収益に変えることができる仕組みを整備してきた。

2017年5月現在、河源村では45%、黎光村では62%の世帯が「村バンク」の融資で起業し、両村で合わせて約9,231ヘクタール(河源村3,021ヘクタール、黎光村6,210ヘクタール)の森林が保護されている。今回の認定は、こうした現地住民の経済的自立と森林保護の両立が評価された結果であり今後も継続的に支援していく計画だ。



現地調査後、優科豪馬橡膠社員と現地住民で記念撮影(黎光村)

運転手さんの技術・努力が!!

省エネ①運転 自動車用

ドライブポイントメーター

現在使用の車輛そのまま
燃料節約が年間30%以上も出来る!!

●詳しくは下記を良く検討して下さい。
又、ご確認の為の相談、貸出しメーターもご用意致しました。

自動車用

- 燃料…ガソリン、軽油、バイオ、電気、ガス他
- 車輛…大型・中型・小型トラック、乗用車、軽車輛

総てに共通に使用出来ます!!

エンジン・ACC作動ランプ

リセットボタンスイッチ

●標準販売価格 _____ 円

●メーターサイズ：
約(H)35×(W)65×(L)100mm

取付／配線等

- ① メーターは運転席、ダッシュボード等、運転に支障をきたさない位置に貼り付けて使用します。
- ② 電源、ACC、スピードメーター、アクセルレーター、スイッチ、コード(5本)等、取付は簡単です。

使用 方法

- ① 目的地に向かってスタートする時、リセットボタンスイッチを押して下さい。
Pointは100を、Hourは000.0が表示されます。エンジン作動中はACCランプが点灯し、Hourが積算されます。
Pointは運転方法にて⊕表示(省エネ) ⊖表示(消エネ)
(例) ⊕表示…101～175 } このポイント数値は取付車両の標準走行距離 km/ℓ を100と表わし、
⊖表示… 99～ 70 } 省エネ⊕表示、消エネ⊖表示します。数値は標準走行 km/ℓ の実質走行 % です。
“実験走行(一般道において)180 Pointクリアー” 達成!!
- ② 消費燃料計算は

	全走行距離(km) ÷ (標準走行 km/ℓ × Point 000%) = 消費燃料(ℓ)			
(例)-①	500km	÷	(5 km/ℓ × 100%)	= 100.00ℓ
(例)-②	500km	÷	(5 km/ℓ × 85%)	= 117.65ℓ
(例)-③	500km	÷	(5 km/ℓ × 115%)	= 86.96ℓ
(例)-④	500km	÷	(5 km/ℓ × 150%)	= 66.67ℓ

(参考標準走行 km/ℓ は車種によって 2～20 km/ℓ と多様です。)

省エネ運転 ○ / 消エネ運転 ×

- ① 一般的な省エネ運転はもとより、出来るかぎりの運転努力が高い省エネPointになります。
例-①～④の通り、同じ500km走行でも…
66.67ℓと117.65ℓでは¥7,657 (@150/ℓの時)の差が生じます。
運転手さんの努力が燃料節約につながります!!

努力なしでは
利益は飛んで行く

運転手の努力…利益

会社×台数=利益

ミックワークス株式会社

本社 〒228-0015 神奈川県座間市南栗原1-8-13
TEL 0462-51-5011 FAX 0462-53-1439